

(国語)

「自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもを育てる」
～話す・聞く・話し合う活動を中心とした国語科の学習を通して～

大阪市立新北島小学校 吉永 千明

1. 研究主題設定の理由

本校では、平成 28 年度から国語科を研究教科とし、子どもたちの表現力を高めるための指導法の研究に取り組んできた。

研究 1 年目となる昨年度は、研究主題を「進んで表現しようとする子どもを育てる～言語活動の充実を図る国語科の指導の工夫～」と設定し、音読や言語活動の仕方に焦点を当てて研究に取り組んできた。1 時間の授業の中に、音読を取り入れることを意識して行い、音読の仕方も一斉読みだけでなく、役割読みやグループ読み等工夫し楽しみながら音読に取り組めるようにした。子どもたちは、物語の台詞を登場人物の気持ちになって表現を工夫しながら音読に取り組む姿が見られた。また、学習単元の第Ⅲ次では子ども達が「やりたい」と思えるような言語活動を設定することで、子どもが第Ⅲ次の活動を楽しみにし、目的意識をもって第Ⅱ次の読み取りに取り組むことができた。これらの活動を通して子どもたちに読む力や発表する力は少しずつ身についてきた。一方で、自分の意見を言うことはできるが、相手の意見を聞いて、話し合ったり考えを深めたりする力がまだ足りないことがわかった。

そこで、2 年目の本年度は研究主題を「自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもを育てる～話す・聞く・話し合う活動を中心とした国語科の学習を通して～」と設定し、話し合う活動を中心とした学習に取り組むこととした。友だちと意見を交流することで、自分とは違う考え方に気が付くことができたり、自分の考えを深めたりすることにつながり、より豊かに表現できる子どもの育成を目指していく。

2. 研究の趣旨

昨年度から国語科の研究に取り組んできた。その中で、人の意見を聞き質問したり感想を述べたりする力が足りないことがわかった。そこで、本年度は話し合い活動を中心とした国語科の指導に取り組むことにした。国語の学習の中で、ペアやグループ、ディベートやパネルディスカッション等、学年や単元に応じて様々な話し合いの活動を取り入れて取り組んできた。話し合い活動を通して、自分の意見だけでなく、友だちの意見を聞き多様な考え方に気が付くことができるようにしたいと考えた。また、話し合いを深めるためには、一人ひとりが話の内容をしっかりと捉えていることが必要だと考えた。そこで、各単元で一人学びに取り組み、物語の大体の内容をまずは 1 人で読み取ることができるよう取り組んだ。1 人で読み取ることが難しい児童には指導者が助言をしながら、一人ひとりが物語に向き合う時間をとった。さらに、物語で読み取ったことをもとに、自分でお話を読み進められるよう読書活動にも力を入れて取り組むとともに、読み聞かせやアニメーション等、児童が読書に興味を持てるような活動を工夫して行ってきた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 話し合い活動の在り方の工夫

- 自分の考えを発表したり、友だちの考えを聞いたりして、自分と友だちの考えで同じところや違うところを見つけることができるように話し合う場を設定する。

視点② 一人学びの時間の確保

- 学習単元の第Ⅰ次で、初発の感想の後に設定し、全体で物語を読み取る前に、まず一人ひとりが物語の内容の大体を掴み自分の考えを持てるようにする。

視点③ 読書活動の充実

- 毎週金曜日の朝学習の時間と、各学級の図書の時間を使い週2回読書タイムを設定し、一人ひとりが読書に集中する時間を作る。
- 集会の時間を使い、図書委員会による読み聞かせ集会を行った。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 学年の実態や、単元に応じて様々な交流の仕方に取り組んできたことで、自信を持って自分の考えを伝えたり、楽しみながら伝え合ったりすることができるようになってきた。
- 単元ごとに一人学びに取り組むことで、一人ひとりが物語に向き合い大体の内容をつかみ、自分の考えを持つことができるようになってきた。
- 一人学びに取り組む、自分でお話を読み取る経験をすることで、第Ⅲ次の言語活動において自分でお話を読み取る力がついた。
- 学年ごとに読書の取り組みを行ったり、図書室開放の時間を増やすことで、読書に親しむ児童が増えてきた。

(2) 今後の課題

- 今後は、型にはまった話し合いだけでなく、自由に意見を交流する中で、より話し合いが深められるよう取り組んでいきたい。
- 児童の活動の時間をしっかりと確保するために、授業の時間配分を工夫して取り組んでいく必要がある。